

1. 申請港概要

- 港湾管理者 室蘭市
- 担当部署 港湾部港湾管理課
- 地元自治体 室蘭市
- 室蘭港は北海道内浦湾の東端に位置する国際拠点港湾で、北海道で最も水深が深く、静穏で広大な水域、多くの岸壁と広い背後地を有しており、多様な貨物に対応出来る港として発展してきた。

平成14年には循環型社会に対応した取組が評価され、リサイクルポートの指定を受け、現在も地域特性を活かした循環資源の取扱を継続して実施している。



2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

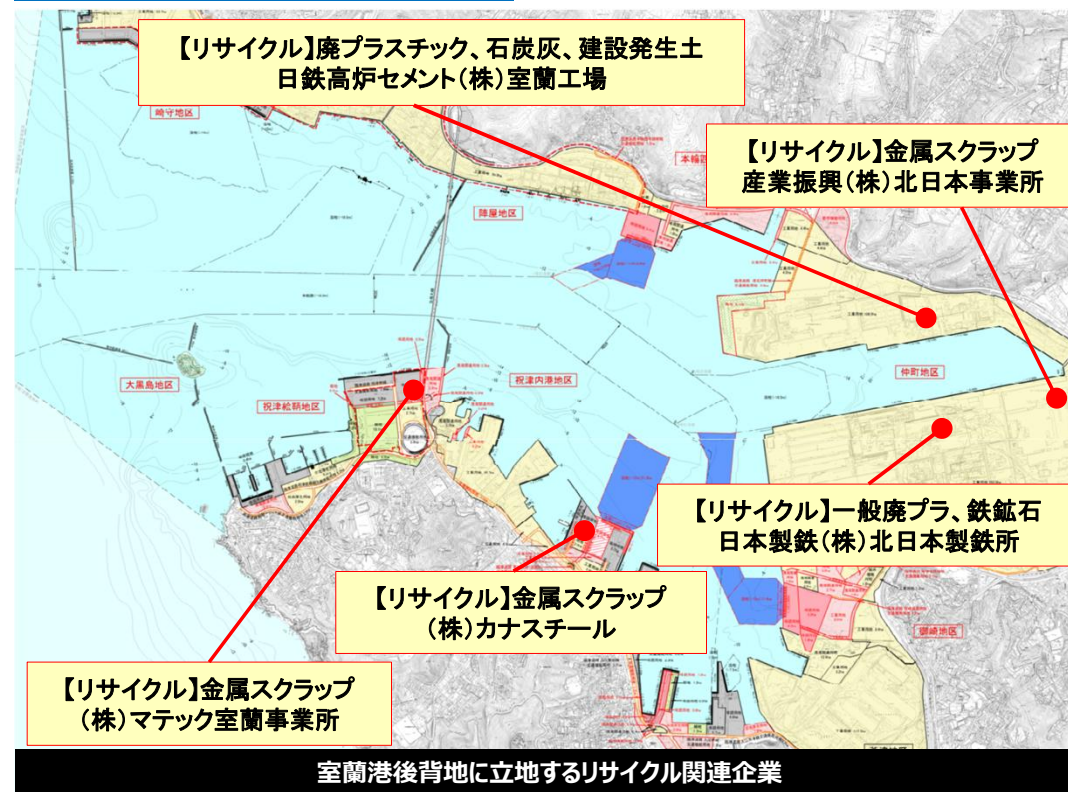
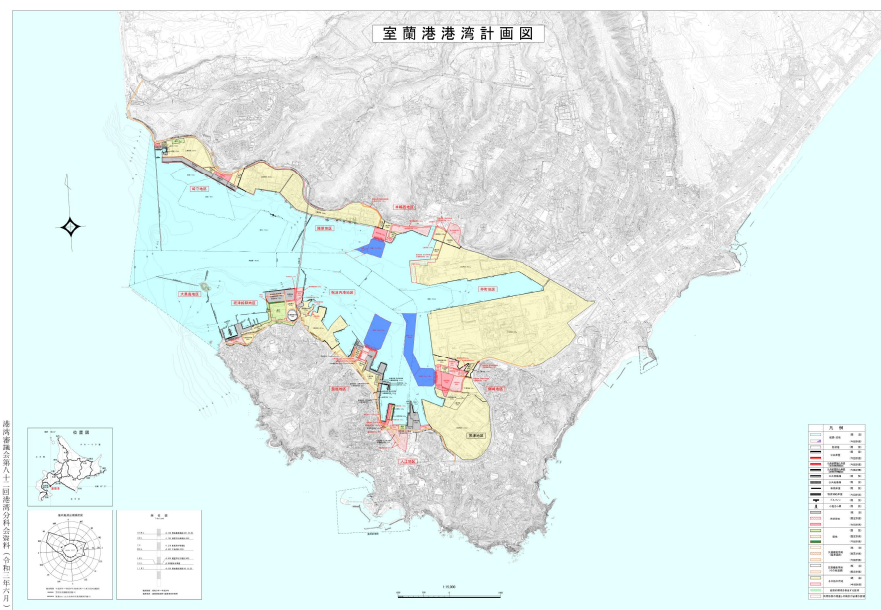
○：実績
☆：計画

- 循環資源取扱貨物量（金属くず、非金属鉱物、廃プラ等）は、直近10年約45.3万トンで推移し、令和7年の約46.5万トンはリサイクルポートとして指定された平成15年の約9万トンの5.2倍に増加しており、リサイクルポートとしての役割を担っています。

☆ 循環資源取扱貨物量は、直近10年の前半5年(H28～R2)平均の約39万トンから後半5年(R3～R7)平均は約1.33倍となる約51.7万トンで推移しており、今後も取扱量の増加が見込まれることから、後背地に集積するリサイクル関連企業と連携しながら、港湾を核とした広域的な資源循環ネットワーク機能の充実を図り、サーキュラーエコノミーポートとして、その役割を果たせるよう努めて参ります。

3. その他

■ 位置図（港湾計画図）



1. 申請港概要

- 港湾管理者 苫小牧港管理組合
- 担当部署 施設部計画課
- 地元自治体 北海道、苫小牧市、厚真町
- 苫小牧港は北海道の太平洋南西岸に位置し、内外航定期コンテナ船、RORO船、カーフェリーなど、多数の航路を有している。また、国際・国内物流の中核を担う国際拠点港湾として、農水産品、食料品、生活関連物資、工業製品等の安定輸送に大きな役割を果たしている。平成14年にはリサイクルポート指定を受け、循環資源も取り扱われている。



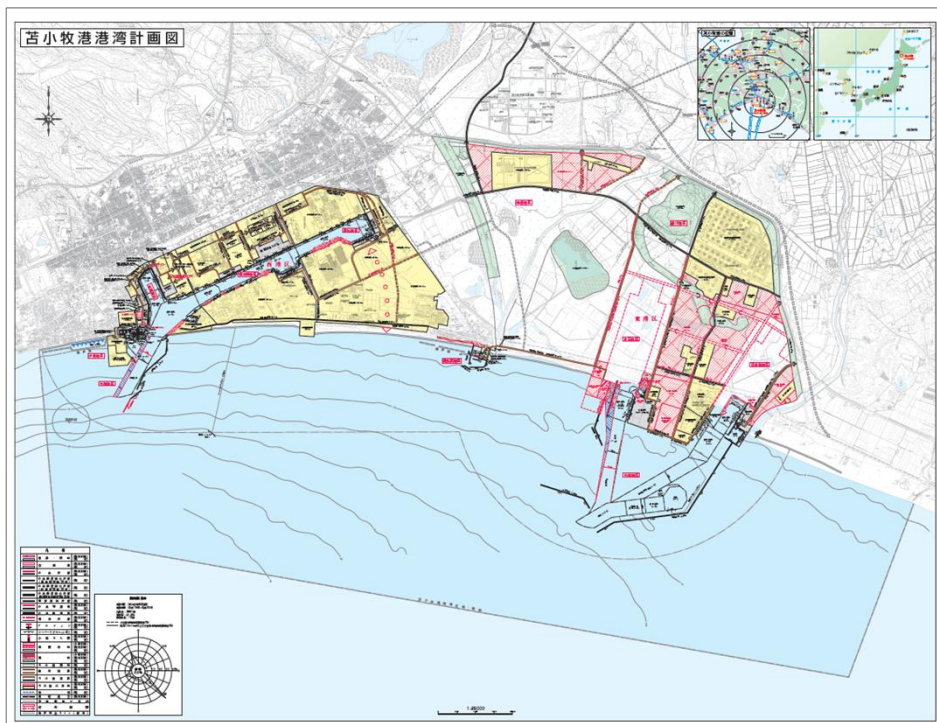
国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

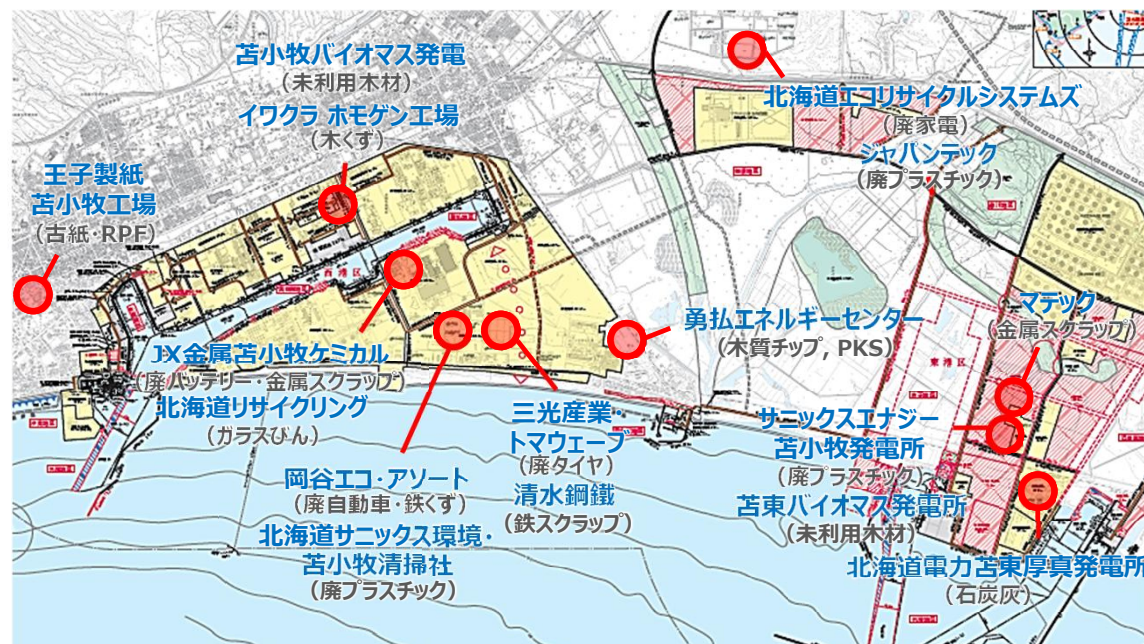
○：実績
☆：計画

- 循環資源取扱貨物量（金属くず、再利用資材など）は、近年約200万トン前後で推移し、令和6年の取扱量はリサイクルポートとして指定された平成14年の約1.3倍に増加しており、リサイクルポートとしての役割を担っています。
- コンテナ貨物及びバルク貨物の双方に対応した港湾機能を活かし、金属くずや再利用資材など多種多様な循環資源の円滑な受入れに対応しております。
- ☆ 後背地には多種多様なリサイクル関連企業が進出しており、循環資源貨物の集積が進んでいます。これらのリサイクル関連企業と連携しながら、港湾を核とした広域的な資源循環ネットワーク機能を促進し、サーキュラーエコノミーポートとして、その役割を果たせるよう努めて参ります。

■ 位置図（港湾計画図）



3. その他



苫小牧港後背地に立地する主な循環資源取扱い企業・施設（取扱い循環資源）

1. 申請港概要

- 港湾管理者 石狩湾新港管理組合
 - 担当部署 石狩湾新港管理組合
振興部計画施設グループ計画担当
 - 地元自治体 北海道、小樽市、石狩市
 - 石狩湾新港は北海道の日本海に臨む石狩湾沿岸のほぼ中央に位置し、道内の政治・経済の中心である札幌圏を背後に擁する重要港湾で、国際・国内物流及び道内へのエネルギー供給拠点として発展している。
- 平成9年に韓国釜山港との間に外貿定期コンテナ航路を開設し、花畔ふ頭にガントリークレーンやリーファーコンテナ用コンセントなどを配備しており、北海道のコンテナ物流を支える拠点として機能強化している。平成15年にリサイクルポート指定を受け、循環資源の取扱や石狩湾新港地域への企業集積、再生可能エネルギーの導入に取り組むなど、環境価値で利用者から選ばれる港湾を目指している。



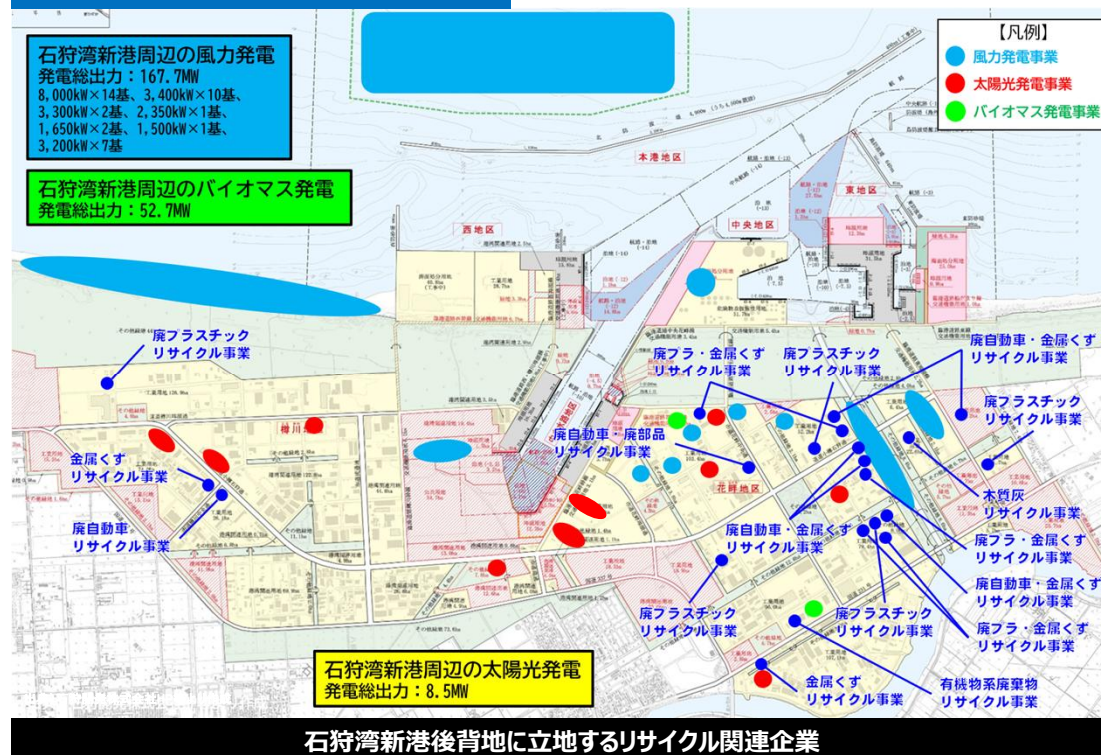
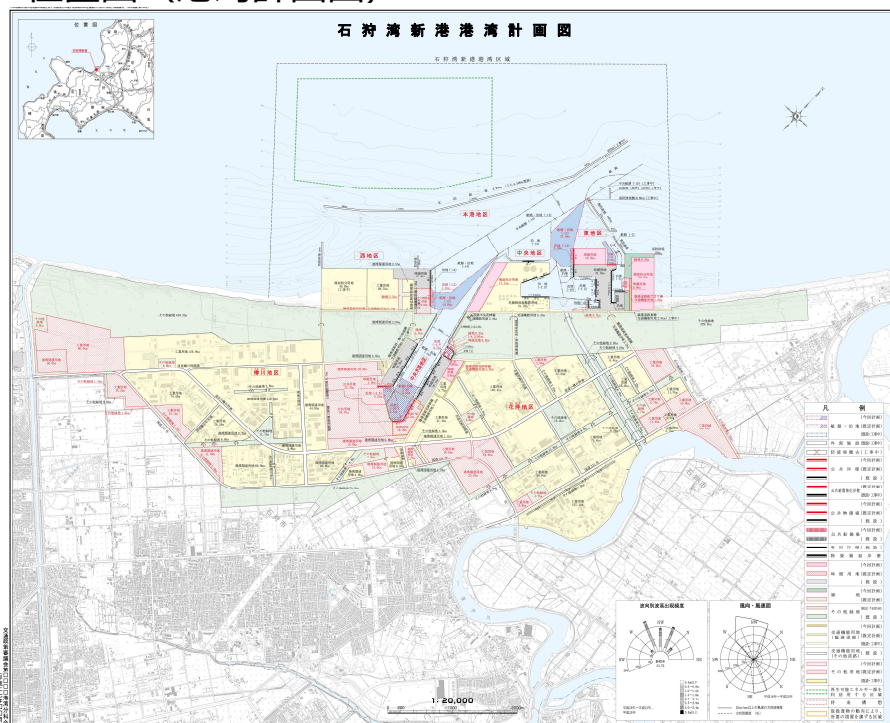
2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 循環資源取扱貨物量（金属くず）は、近年19万トンを超える水準を維持し、令和7年（速報値）の取扱量は、リサイクルポートとして指定された平成15年の約1.7倍の20万トンに増加し、リサイクルポートとしての役割を拡大しています。
- ☆ 石狩湾新港と国内の複数港が連携した鉄スクラップ輸送に関する海上輸送ネットワークの形成に資するため、境港や直江津港などの関係事業者や港湾管理者と共同輸送に向けた協議を進めて参ります。
- ☆ 石狩湾新港後背地の石狩湾新港地域には、リサイクル関連企業が進出しており、循環資源貨物の集積が進み、風力・太陽光等の再生可能エネルギー発電施設の立地についても進んでおり、これらの資源の有効活用や再生可能エネルギーの導入を通じて、札幌圏における循環型社会の形成とサーキュラーエコノミーの協力を図って参ります。

3. その他

■ 位置図（港湾計画図）



1. 申請港概要

- 港湾管理者 青森県
- 担当部署 青森県県土整備部港湾空港課
港湾計画・空港グループ
- 地元自治体 八戸市
- 八戸港は、青森県南東部の太平洋側に位置する重要港湾で、北東北の重要な物流拠点として発展してきた。
八太郎地区では、平成13年にコンテナターミナルの施設が完成し、現在では約40,000TEU/年のコンテナが扱われている。
また、平成15年にはリサイクルポートとして選定されており、循環資源を扱う鉄鋼所が立地するなど、地域の静脈物流の拠点として活躍している。



国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

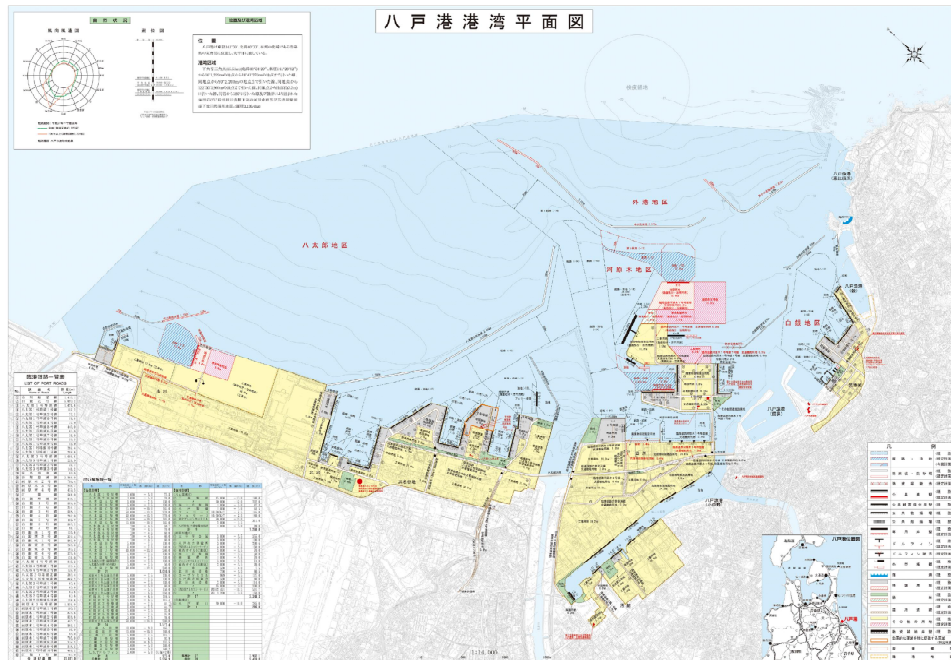
- 廃自動車、廃家電、廃プラ、金属くず、焼却灰、汚泥などのリサイクル関連企業が集積しており、北東北における資源循環の拠点港になっている。
また、港内の各岸壁では、臨港地区内の企業のみならず、地区外のリサイクル関連企業で用いられる循環資源貨物も荷役されている。

令和7年の循環資源取扱貨物量は約49万トンとなっており、リサイクルポートとして指定された平成15年から一定の取扱量を維持しています。

- ☆ 八戸市内に位置するリサイクル関連企業では、熱エネルギー源として廃棄物の広域的な受入を計画しており、港湾を活用した循環資源の受入れ及び輸送の拡大を通じて、サーキュラーエコノミーへの促進を図って参ります。

3. その他

■ 位置図（港湾計画図）



1. 申請港概要

- 港湾管理者 岩手県
- 担当部署 岩手県県土整備部
港湾空港課
- 地元自治体 釜石市
- 釜石港は岩手県の南東部に位置する天然の良港であり、明治初期に国営製鉄所が建設されたことを契機に産業拠点として発展した。

平成15年にリサイクルポート指定を受け、循環資源の取扱いや臨海部への企業集積が進んでいる。現在は、週3便のコンテナ定期航路が開設され、利便性が格段に向上するとともに、東北横断自動車道釜石秋田線と三陸沿岸道路が全線開通し、内陸部と沿岸部を繋ぐ物流ネットワークが構築され、その結節点に位置する釜石港は、当市のみならず、岩手県経済を牽引する重要な物流拠点となっている。



国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

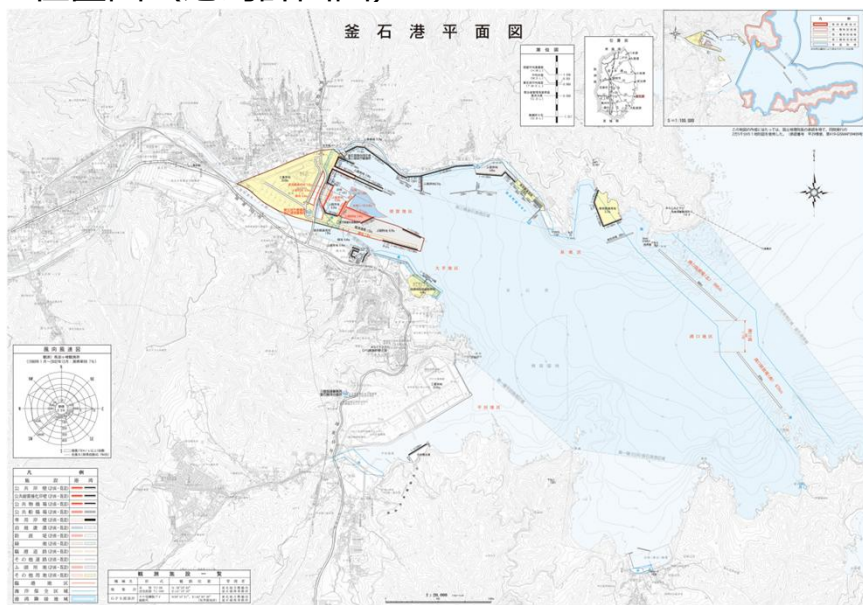
○：実績
☆：計画

- 循環資源取扱貨物量は、近年、約3.5万トン程度で推移しており、鉄スクラップなどの金属くず、鉄鋼スラグや廃プラスチックなどの再利用資材などの取扱いがあります。
- 釜石港臨海部周辺に立地する企業において、国内各地の製鉄所で発生した鉄鋼スラグを原料として他の港湾から移入し、肥料に再資源化しており、国内で調達可能な産業副産物の資源循環が図られています。
- ☆ 釜石港臨海部周辺には、リサイクル関連企業が進出しており、循環資源の集積が進み、広域的な集積拠点としての機能が強化されつつある。
これらの資源を有効活用することで、地域における循環型社会の形成を図るとともに、サーキュラーエコノミーへの取組を推進して参ります。

3. その他



■ 位置図（港湾計画図）



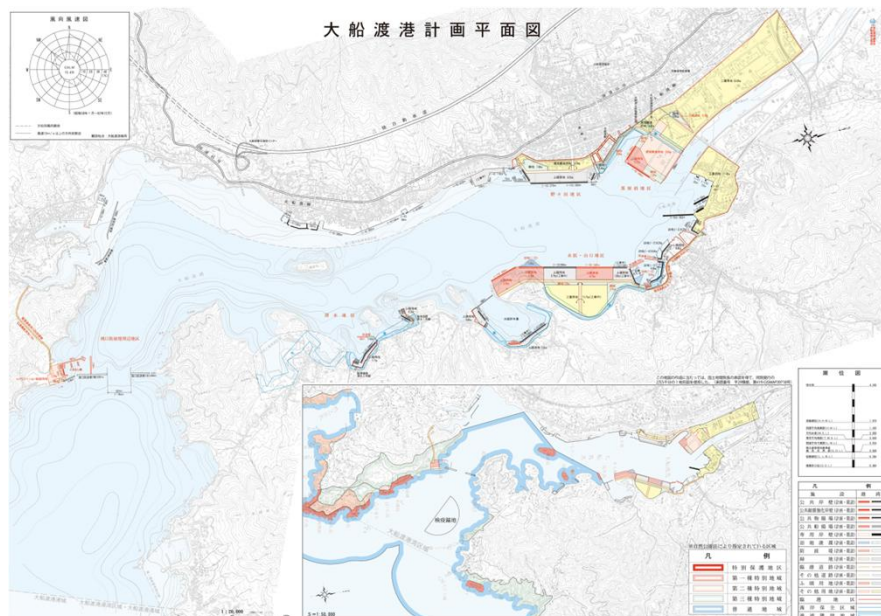
1. 申請港概要

- 港湾管理者 岩手県
- 担当部署 岩手県県土整備部
港湾空港課
- 地元自治体 大船渡市
- 大船渡港は岩手県沿岸南部に位置する天然の良港であり、セメントや木材、石油等を扱う港として発展してきた。
現在は大規模なセメント工場を有する東北有数の製造拠点であり、国際フィーダーコンテナ定期航路による物流に加え、脱炭素化及び循環型社会の実現に向けた取組の一環である内航コンテナ静脈輸送にも対応している。
さらに、背後の北上山地における国際リアコライダー計画も見据え、物流や観光の拠点として今後の発展が期待されている。



国土地理院地図より

■ 位置図（港湾計画図）



2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- セメント製造を核として、廃プラスチックの代替燃料利用、石炭灰や鑄造工程由来の廃砂の原料再利用などの循環資源取扱貨物量は、近年約3.0万トンに推移している。また、令和2年に静脈物流に係る内航コンテナ航路が就航し、首都圏の廃プラスチックなどの再生資源の輸送効率化を図り、現在も継続して運航しています。
- 港湾周辺に立地するセメント工場において、東日本大震災や大規模林野火災において、港湾を活用した災害廃棄物の受入・処理に関与してきた実績を有する。また、平成29年に、セメント工場・岩手県・大船渡市の三者で「循環型地域社会の形成に関する協定」を締結しています。
- ☆ 上記協定締結のほか、サーキュラーエコノミーについて関連企業等と情報交換しながら取組の共有を図っている。また、国の地方創生伴走支援制度を活用し、地方創生支援官とともにリサイクル関連等の企業訪問を実施するとともに、企業立地動向アンケート調査を行うなど、港湾へのリサイクル関連施設の誘致・集積に向けて積極的に取り組んで参ります。

3. その他



大船渡港後背地に立地するリサイクル関連企業

1. 申請港概要

- 港湾管理者 秋田県
- 担当部署 秋田県建設部
港湾空港課港湾チーム
- 地元自治体 秋田市
- 秋田港は県中央部の雄物川旧河口に位置する重要港湾で、5万トン級岸壁を含む30バースの岸壁やマリーナ施設を整備している。令和2年に基地港湾に指定され、洋上風力発電の運転が開始されているほか、韓国・中国との定期航路やフェリーの定期便やクルーズ船の受入も活発であり、令和5年にはポートオブザイヤー2022へ選定されている。国際ターミナルの整備やコンテナヤード拡張など国内外の物流拠点として機能拡張を行いながら、賑わい創出など港湾振興にも力強く取り組んでいる。



国土地理院地図より

■ 位置図（港湾計画図）

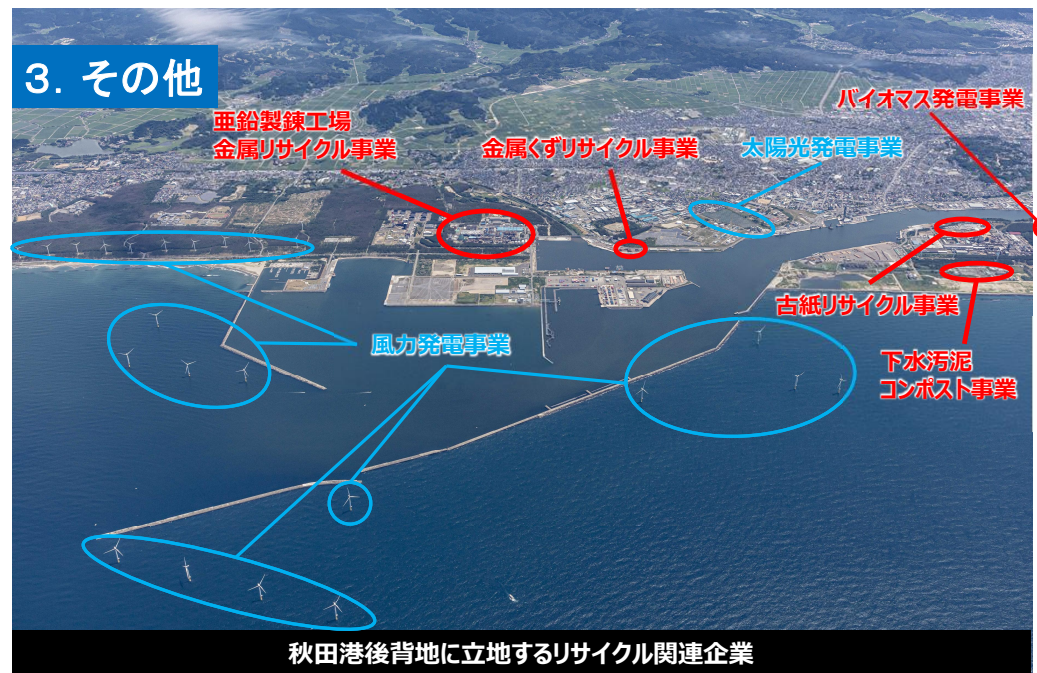


2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 鉄鋼メーカーなどから輸入した亜鉛二次原料（リサイクル原料）に含まれる亜鉛やその他有価金属を回収する製錬所、古紙のリサイクルを行い製品の出荷を行う企業、また木質チップや輸入したパームヤシ殻を燃料とする木質バイオマス発電所などの再生可能エネルギーの関連企業が集積しており、製錬所から副産物（有価金属濃縮物）を遠方の関連拠点へ運び出し、レアメタルの回収・再製品化を行うなど広域的な資源循環ネットワークの形成に寄与して参りました。
- 循環資源貨物取扱の事例として、亜鉛二次原料は直近で年間4万トン弱、古紙は直近で年間約24万トン、木質チップ及びパームヤシ殻は直近で合計年間約23万トンを受け入れており、静脈物流拠点としての役割を担っております。
- ☆ 工業用地における大規模な製錬所を中心とした循環資源貨物の集積が進み、ふ頭用地などは再利用資材（金属くず、古紙等）の保管場所として活用されています。古紙リサイクルに取り組む企業や、パームヤシ殻を輸入し燃料とするバイオマス発電所、風力・太陽光等の発電施設の立地も進んでおり、港湾を活用した循環資源の効率的な輸送・保管や再生可能エネルギーの導入を通じて、地域における循環型社会の形成とサーキュラーエコノミーの協力を図って参ります。

3. その他



秋田港後背地に立地するリサイクル関連企業

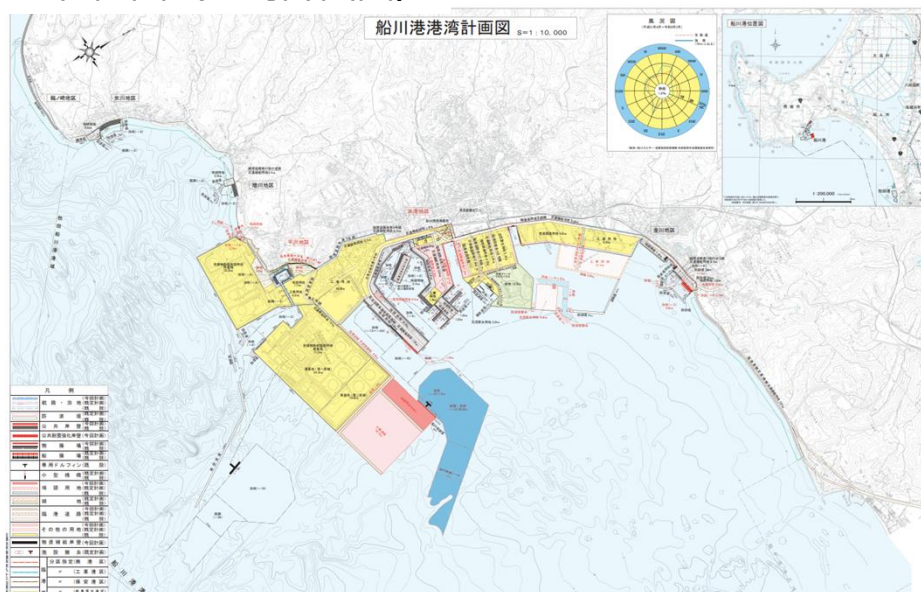
1. 申請港概要

- 港湾管理者 秋田県
- 担当部署 秋田県建設部
港湾空港課港湾チーム
- 地元自治体 男鹿市
- 船川港は男鹿半島の南部に位置する重要港湾で、岩礁に囲まれた天然の良港であり、地域経済の中核となっている。平成24年にはポートオブザイヤー2011に選定され、同年、海フェスタのメイン会場となったほか、平成30年には、臨港地区に複合商業施設が開業するなど、観光の拠点としても盛り上がりを見せている。1万5千トン級岸壁を含む4バースの岸壁を整備しており、洋上風力発電事業に関連する利用需給に対応した令和6年の船川港港湾計画改訂により地域産業振興の拠点としても発展が期待されている。



国土地理院地図より

■ 位置図（港湾計画図）



2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 「鉄鋼スラグ水和固化体製人工石材（以下、「人工石」）」資源製造活用施設、汚染土壌を扱う保管施設（港湾外の県内陸部に再生資源化）などのリサイクル関連企業が集積しており、広域的な資源循環ネットワークの形成に寄与して参りました。
循環資源取扱貨物の事例として、汚染土壌（廃土砂）は直近5年で平均年間約2万トンを受け入れており、循環資源を環境負荷の小さい海上輸送（モーダルシフト）で受け入れる静脈物流拠点としての役割を担っております。
- ☆ 洋上風車の洗掘防止となる「人工石」の活用を始め、汚染土壌を集積し、運搬、処理を行う県内陸部工場との連携など、港湾用地へのリサイクル関連企業の進出、土地の有効活用がなされており、これらの資源の有効活用や再生可能エネルギーの導入を通じて、地域における循環型社会の形成とサーキュラーエコノミーの協力を図って参ります。

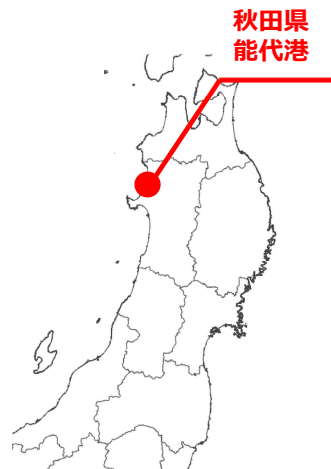
3. その他



船川港後背地に立地するリサイクル関連企業

1. 申請港概要

- 港湾管理者 秋田県
- 担当部署 秋田県建設部
港湾空港課港湾チーム
- 地元自治体 能代市
- 能代港は秋田県北部、日本海に注ぐ米代川河口に位置する重要港湾で、地域経済・エネルギー供給の拠点として発展。
大規模な火力発電所が立地し、平成18年にリサイクルポート指定を受け、県北部エコタウン計画と連携した総合静脈物流拠点を形成。令和2年に基地港湾に指定される。さらに令和4年には全国初となる商業ベースの港湾区域内洋上風力発電が稼働するなど、資源循環と新エネルギー導入による新たな機能も強化中。



国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 循環資源取扱貨物量（石炭灰、金属くず等）は、近年約23.5万トンで、石炭灰リサイクル施設（FRC製造等）や金属くず取扱施設などの関連企業が立地しています。港湾背後には、廃プラスチックの高度な分別・中間処理施設や精錬施設など県北部エコタウン計画と連携した産業集積があり、多種多様な循環資源の受け入れと高度な再資源化が可能であり、静脈物流拠点として、サーキュラーエコノミーの形成に大きく貢献しています。
- ☆ 隣接する工業団地には、リサイクル関連企業が進出しており、循環資源貨物の集積とともに、風力・太陽光等の再生可能エネルギー発電施設の立地が進んでおり、これらの資源の有効活用や再生可能エネルギーの導入を通じて、地域における循環型社会の形成とサーキュラーエコノミーの協力を図って参ります。

■ 位置図（港湾計画図）



3. その他



1. 申請港概要

- 港湾管理者 山形県
- 担当部署 山形県県土整備部
港湾課
- 地元自治体 酒田市
- 酒田港は、山形県北西部、日本海に注ぐ最上川河口に位置する重要港湾で、国際・国内物流の拠点として発展。
北港地区には5万トン級岸壁を含む大型バースを整備し、韓国・中国との定期航路や国際ターミナルを備え、環日本海圏交流を推進。平成15年にリサイクルポートの指定を受け、循環資源の取り扱いや酒田臨海工業団地など後背地への静脈産業の集積に加え、再生可能エネルギーの導入など新たな機能も強化中。



国土地理院地図より

■ 位置図（港湾計画図）



2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 石炭灰リサイクル施設、自動車リサイクル施設、第3セクター方式による木くず・汚染土壌を扱う共同利用型保管施設などの多種多様なリサイクル関連企業が集積しており、「日本海側拠点港（リサイクル貨物）」として、広域的な循環資源ネットワークの形成に寄与して参りました。
- 循環資源取扱貨物量については、近年40万トンを超える取扱量を維持し、令和7年の取扱量はリサイクルポートとして指定された平成15年の約2.5倍となる49.2万トンに増加するとともに、地域ごとに少量・分散して発生する循環資源の集積・輸送機能も担うなど、リサイクルポートとしての役割を拡大しています。
- ☆ 後背地の酒田臨海工業団地には、リサイクル関連企業が進出しており、循環資源貨物の集積が進んでいます。また、風力・太陽光・バイオマス等の再生可能エネルギー発電施設の立地が進んでおり、これらの資源の有効活用や再生可能エネルギーの地産地消を通じて、サーキュラーエコノミーを実現し、地域における循環型社会の形成を図って参ります。

3. その他



1. 申請港概要

- 港湾管理者 福島県
- 担当部署 福島県 土木部 港湾課
- 地元自治体 いわき市
- 小名浜港は福島県沿岸南部のいわき市

に位置する重要港湾であり、背後には、複数の石炭火力発電所が立地するなど、福島県の産業を支える物流拠点として重要な役割を果たしています。

大剣地区のコンテナターミナルには、定期航路として、韓国・中国航路や京浜港との国際フィーダー航路を有しており、県内企業の生産活動に大きな役割を果たしています。令和6年度までにコンテナヤードの拡張やコンテナクレーンの増設を完了し、コンテナ船の2隻同時接岸が可能となり、更なる荷役の効率化に寄与しています。



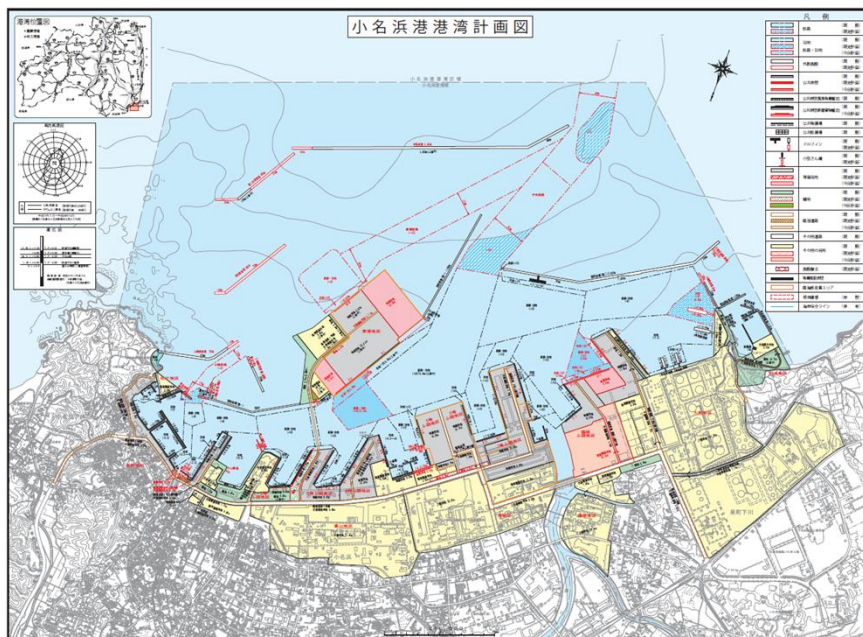
国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- ☆ 循環資源取扱貨物について、小名浜港では、約150万トン/年のバラ積み貨物、約900TEU/年のコンテナ貨物を取り扱っています。現在、陸上輸送により循環資源の輸送を実施しているリサイクル関連企業も、将来的には小名浜港を利用することを見込んでおり、サーキュラーエコノミーポートへの期待の声が寄せられています。
- ☆ 蓄電池は、電化社会・デジタル社会において国民生活・経済活動が依拠する重要物資とされています。市場規模は今後も拡大していく見込みであり、持続可能で環境に配慮したリサイクルの推進が重要とされています。港湾の背後の使用済み蓄電池のリサイクル事業では、より高度な技術を用いて有用な再生材を回収する再資源化事業が計画されています。
- 大剣地区では、コンテナクレーン2基を備えたコンテナターミナルを有しており、分散して発生する循環資源をコンテナを活用して効率的に集積・海上輸送することで、小口の循環資源の広域輸送に対応する機能を備えています。
- 大剣地区のコンテナターミナルの背後には、大剣CFS（コンテナ・フレート・ステーション）があり、隣接する藤原ふ頭地区にも藤原CFSがある等、多種多様な循環資源の取扱が円滑に行える施設が備わっています。
- ☆ 福島県では、サーキュラーエコノミー促進支援事業に係る補助事業や、福島県エネルギー・環境・リサイクル企業コンソーシアム事業化促進事業に係る事業化可能性調査を実施するとともに、これらの取組を通じ地域の循環経済の構築を推進して参ります。

3. その他



小名浜港後背地に立地するリサイクル関連企業

1. 申請港概要

- 港湾管理者 福島県
- 担当部署 福島県 土木部 港湾課
- 地元自治体 相馬市、新地町
- 相馬港は、福島県浜通り地方北部の相馬市及び新地町に位置する重要港湾であり、背後には、火力発電所やLNG基地が立地し、エネルギー供給拠点として機能しています。

背後交通網の整備については、全長約45kmの東北中央自動車道（相馬～福島）が整備され、令和3年度に相馬福島間が開通し、県内陸部や宮城・山形へのアクセスが格段に向上し、相馬港における取扱貨物量の増加が今後も見込まれております。



国土地理院地図より

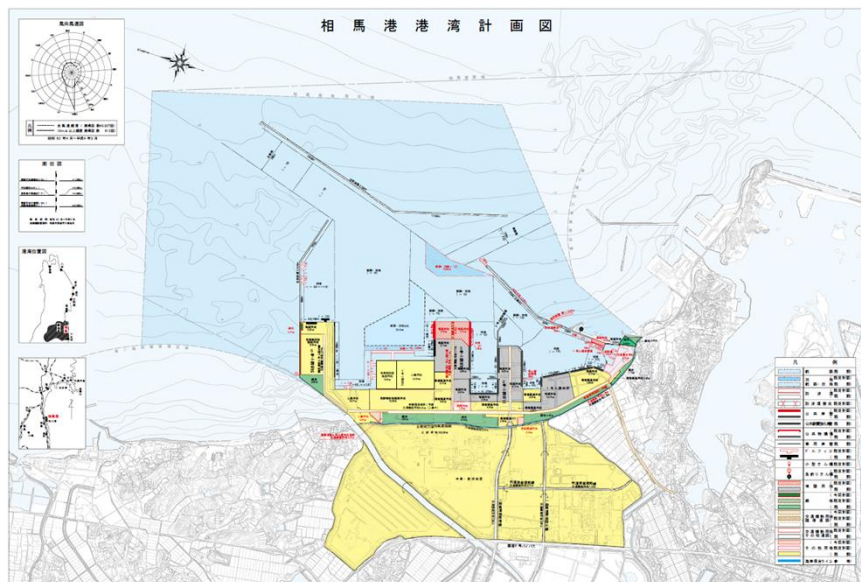
2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- ☆ 循環資源取扱貨物について、相馬港では、約50万トン/年のバラ積み貨物を取り扱っています。現在、陸上輸送により循環資源の輸送を実施しているリサイクル関連企業も、将来的には相馬港を利用することを見込んでおり、サーキュラーエコノミーポートへの期待の声が寄せられています。
- ☆ 2030年代後半以降に大量廃棄が見込まれる太陽光パネルについて、最終処分量の減量及び資源の有効利用のため、リサイクルの推進が重要とされています。港湾の背後の使用済み太陽光パネルのリサイクル事業では、より高度な技術を用いて有用な再生材を回収する再資源化事業が計画されています。
- 2号ふ頭の背後には県営2・3号上屋がある等、多種多様な循環資源の取扱が円滑に行える施設が備わっています。
- ☆ 相馬市、南相馬市、複数の民間事業者は、サーキュラーエコノミーパートナーシップ協定を締結しており、自治体や企業、金融機関および大学が連携し各自が有する、強み・情報・資源を持ち寄り資源循環社会への転換を図り、地域の特性を活かした循環経済圏の構築を目指しています。
福島県では、サーキュラーエコノミー促進支援事業に係る補助事業や、福島県エネルギー・環境・リサイクル企業コンソーシアム事業化促進事業に係る事業化可能性調査を実施するとともに、これらの取組を通じ地域の循環経済の構築を推進して参ります。

3. その他

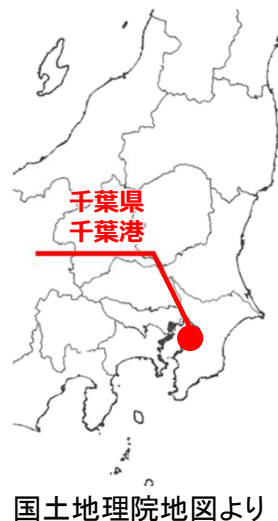
■ 位置図（港湾計画図）



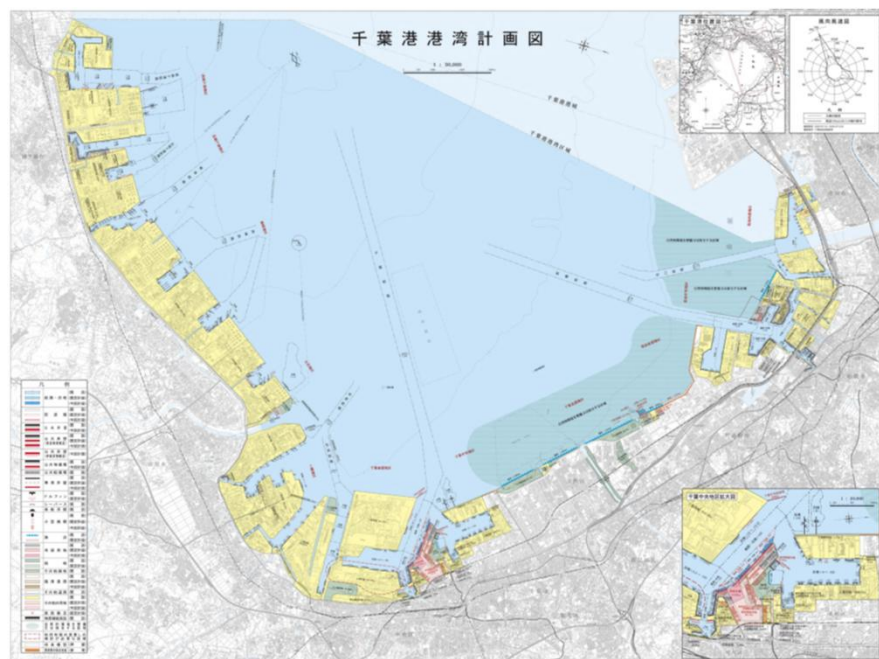
相馬港後背地に立地するリサイクル関連企業

1. 申請港概要

- 港湾管理者 千葉県
- 担当部署 千葉県県土整備部
港湾課港湾戦略室
- 地元自治体 市川市、船橋市、習志野市、
千葉市、市原市、袖ヶ浦市
- 千葉港は東京湾の湾奥部に位置し、6市にまたがり、海岸線延長約133km、港湾区域面積が約24,800haに及び日本一の港湾区域を有する国際拠点港湾である。
京葉臨海工業地帯を中心とした関東地域の海の物流拠点として成長を遂げ、令和7年の貨物総取扱量が約1億2,700万トンと全国第2位を誇る。
取扱貨物は臨海部立地企業の原材料、製品、完成自動車などが主体である。



■ 位置図（港湾計画図）



2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 令和6年の循環資源取扱貨物量(金属くず、再利用資材、廃棄物、廃土砂)は約270万トンとなっています。特に葛南港区では、広大な埋立地を活かした工業港として金属くずの取扱比重が高く、同年の取扱量は約109万トンに及ぶなど、スクラップを中心とした広域的な循環資源の輸送拠点として機能しています。
- ☆ 国内最大級の破砕処理能力を有する金属リサイクル事業所が稼働しており、鉄・非鉄スクラップに加え自動車・家電等多品目を高度に分別・再資源化する地域の総合リサイクル拠点を形成しています。さらに、使用済みプラスチックを高度に分別・再商品化する国内最大級・最新鋭のプラスチックソーティングセンターが本年度より操業を開始し、再生材の品質・機能が一層向上する見込みです。
- ☆ 京葉コンビナートの一角に、廃棄物と循環資源を高付加価値な化学原料・鉄鋼原料へと転換する大規模な高度再資源化拠点の形成が進んでいます。中核となるのは、木質バイオマスと廃プラスチックを原料に国産メタノールを製造するGXケミカルプロジェクトであり、関東圏で発生する再商品化困難な廃プラスチックと、千葉県内を中心に調達する廃木材・森林残置材を活用することで、海外依存度の高い基幹化学原料の国産化を実現します。あわせて、同拠点では国内需要が拡大するGXスチール(高級鋼)向けに、大型破砕設備・高度選別機を備えた金属リサイクルライン、並びに残渣再資源化ラインの整備も計画されており、高品位スクラップの安定供給と残渣の徹底活用を両立します。化学系・鉄鋼系の両プロセスが同一立地で統合運用されることにより、循環経済型産業集積としての国際競争力強化が期待されます。

3. その他



1. 申請港概要

- 港湾管理者 千葉県
 - 担当部署 千葉県県土整備部
港湾課港湾戦略室
 - 地元自治体 木更津市、君津市、富津市
 - 木更津港は、東京湾東岸のほぼ中央に位置する重要港湾で、京葉臨海工業地帯の一翼を担う工業港として、重点整備が進められてきた。臨海部に立地する鉄鋼業やエネルギー業等に関連した外貿貨物や、砂・砂利等の内貿貨物を中心に扱うほか、近年では海外向け中古自動車の取扱いが増加しており、千葉県南部地域における経済社会の基盤として、重要な役割を担う。
- 2003年には、臨海部のリサイクル産業の拠点として、リサイクルポートに指定されている。

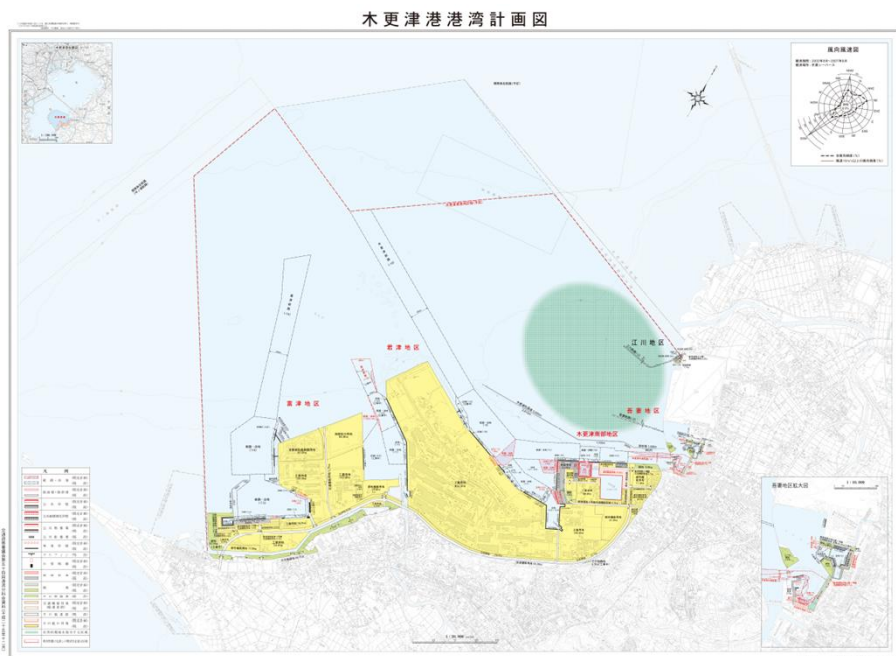


2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

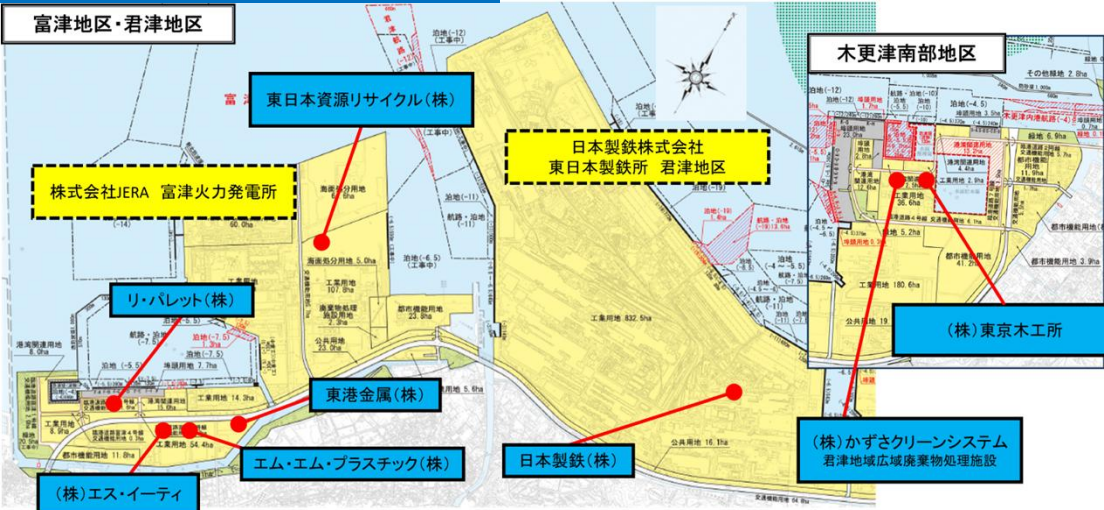
○：実績
☆：計画

- 平成15年にリサイクルポートの指定以降も、鉄鋼スラグ及び鉄くずを中心に、年間200万トンを超える循環資源貨物を継続的に取り扱っています。また、自動車、廃プラスチック等のリサイクル関連企業も立地し、静脈物流ネットワークが形成されています。
- ☆ 木更津港には日本最大の京葉臨海コンビナートの一翼が立地しており、千葉県・立地企業・関係機関が連携する「京葉臨海コンビナートGX推進会議」を基盤とした連携体制が構築されています。特に、サーキュラーエコノミーの推進に向けては、廃プラスチックのマテリアルリサイクル・ケミカルリサイクルの具体的な活用手法を検討する、サーキュラーエコノミー検討WGが設置されており、強力な官民連携のもとで、地域における循環型社会の形成とサーキュラーエコノミーへの貢献を図って参ります。

■ 位置図（港湾計画図）



3. その他



木更津港後背地に立地するリサイクル関連企業

1. 申請港概要

- 港湾管理者 川崎市
 - 担当部署 港湾局 港湾経営部
経営企画課 長期計画担当
 - 地元自治体 川崎市
 - 川崎港は、東京湾の北西部に位置する国際戦略港湾で、京浜工業地帯の一大拠点として発展し、現在は、東南アジアや中国、韓国とコンテナ定期航路が就航するなど、京浜港の一翼を担う国際貿易港であるとともに、国内各港と結ばれるRORO 航路をはじめ、多様な内貿貨物を取り扱う国内輸送拠点港である。
- 平成15年にリサイクルポート指定を受け、市民生活等から発生する金属製品や古紙等の輸送拠点として資源循環に貢献してきた。



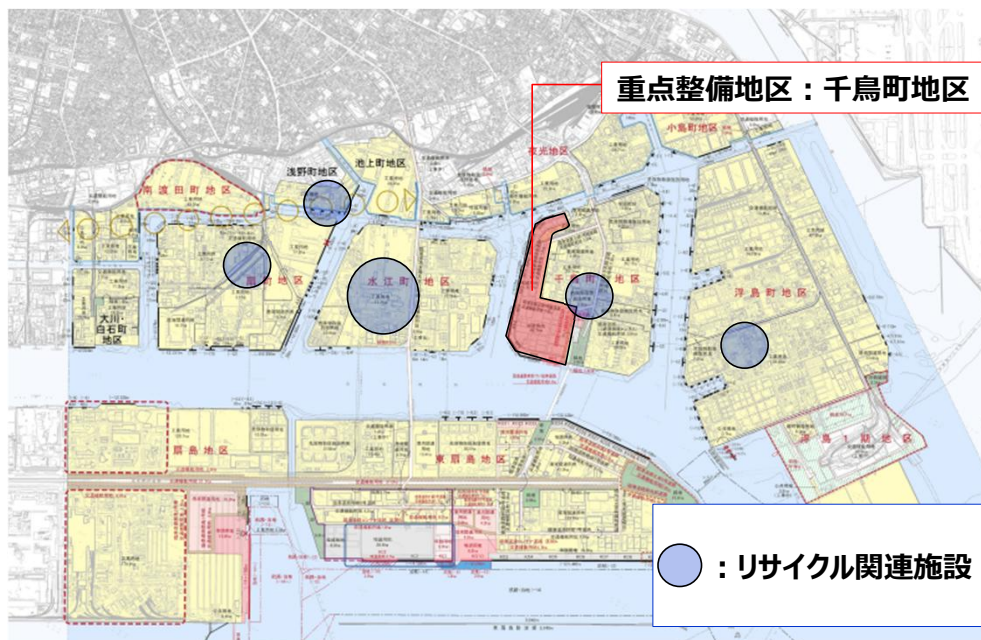
国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 循環資源貨物である金属くずの取扱貨物量は、近年130万トンを超える取扱量の水準を維持し、令和6年の取扱量はリサイクルポートとして指定された平成15年の約1.4倍に増加しているなど、リサイクルポートとしての役割を拡大しています。
 - ☆ 循環資源貨物が取り扱われている千鳥町地区では、施設の老朽化や諸機能の陳腐化に対応するため、「川崎港千鳥町再整備計画」を策定しています。
- 当該計画では、「循環資源貨物ゾーン」を含む3つのゾーンを設定し、貨物特性に応じた施設配置計画により荷役動線の短縮等を図ることや、周辺環境や他の貨物への影響防止に配慮しつつ、多種多様な循環資源貨物の円滑な取扱いに対応できる港湾機能の確保を図ることとしております。
- 上記を踏まえ、地域における循環型社会の形成とサーキュラーエコノミーの協力を図って参ります。

■ 位置図（港湾計画図）



施設配置計画（川崎港千鳥町再整備計画より）

1. 申請港概要

- 港湾管理者 新潟県
- 担当部署 新潟県交通政策局
港湾整備課計画調査係
- 地元自治体 糸魚川市
- 姫川港は県の南西部に位置し、一級河川である姫川の河口右岸側に築かれた掘り込み式港湾である。

周辺地域では、推定埋蔵量50億トンに及ぶ石灰石が産出されており、これを背景に化学工業やセメント産業とともに発展してきた。平成15年には、セメント産業に関連して循環資源を積極的に取り扱ってきたことが評価され、リサイクルポートの指定を受けた。

令和3年には西ふ頭において12,000トン級の岸壁が完成し、港湾機能の一層の強化と利便性の向上が図られている。

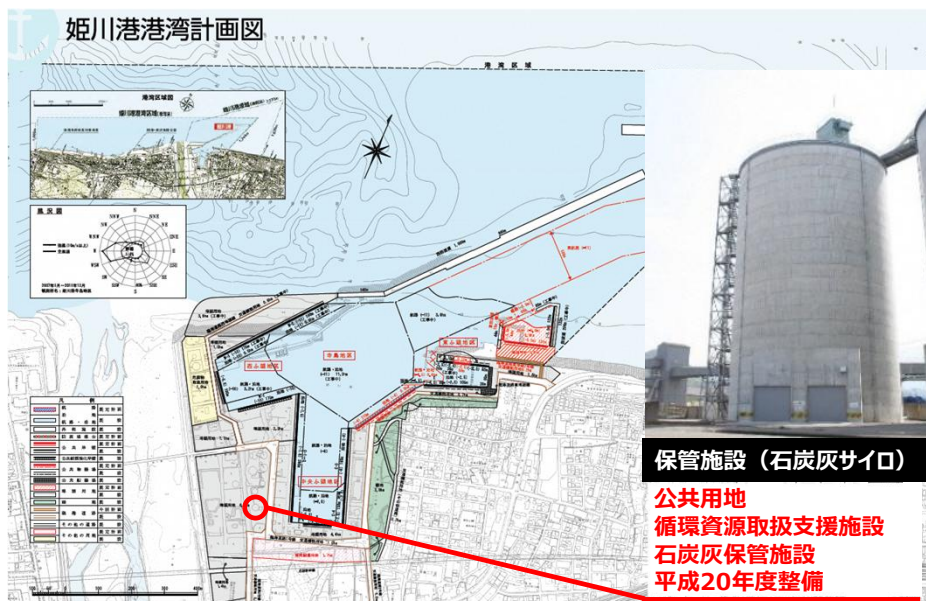


国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 姫川港では、セメント産業を中心に年間約50万トンの循環資源を受入れており、港湾を核とした静脈物流システムの安定的な構築に寄与する役割を担っています。
- 姫川港では、循環資源の受入れ・保管に伴う粉塵の飛散防止対策として防塵柵を設置しており、周辺環境や他の港湾利用への影響の低減に配慮した港湾運営を行っています。
- ☆ 姫川港背後には、廃棄物をセメント製造の原燃料として有効活用する技術を有し、広域的な受入を行うセメント工場の立地をはじめ、更生タイヤ工場、バイオマス発電所、一般ごみの処理施設等が立地しています。更に、糸魚川市では港湾とセメント工場の立地特性をセールスポイントとしてリサイクル関連企業の誘致を積極的に進めることとしています。
また、令和6年能登半島地震で発生した災害廃棄物については、海上輸送による広域処理を受け入れ、背後立地企業と連携して円滑な処理および資源の有効活用に取り組んできました。
これらの実績を踏まえ、今後も災害時における迅速かつ安定的な対応を可能とするため、災害廃棄物の広域処理体制の整備と計画的な運用を進め、循環型社会の形成とサーキュラーエコノミーの推進に取り組めます。



3. その他

- ① 明星セメント(株) 糸魚川工場
- ② サミット明星パワー(株) バイオマス発電プラント
- ③ 明星セメント(株) バイオマス燃料化プラント
- ④ 太平洋セメント(株) 糸魚川発電所



1. 申請港概要

- 港湾管理者 富山県
- 担当部署 富山県土木部港湾課
- 地元自治体 富山市、高岡市、射水市
- 伏木富山港は、日本海沿岸のほぼ中央部に位置し、富山の中心都市圏である富山高岡広域都市圏を背後に擁する港湾であり、富山県を中心に北陸地方の物流拠点として、きわめて重要な役割を担っている。

伏木富山港は、伏木地区、新湊地区、富山地区の3地区から構成され、水深10m以上の大型岸壁を計18バース有し、定期航路が6航路40便/月体制で運航されている。

新湊地区周辺には、本県の基幹産業であるアルミ関連の工場やリサイクル施設が立地し、リサイクル材を再製品化した貨物を国内外に輸移出する取組みが行われており、サーキュラーエコノミーに資する港として貢献している。



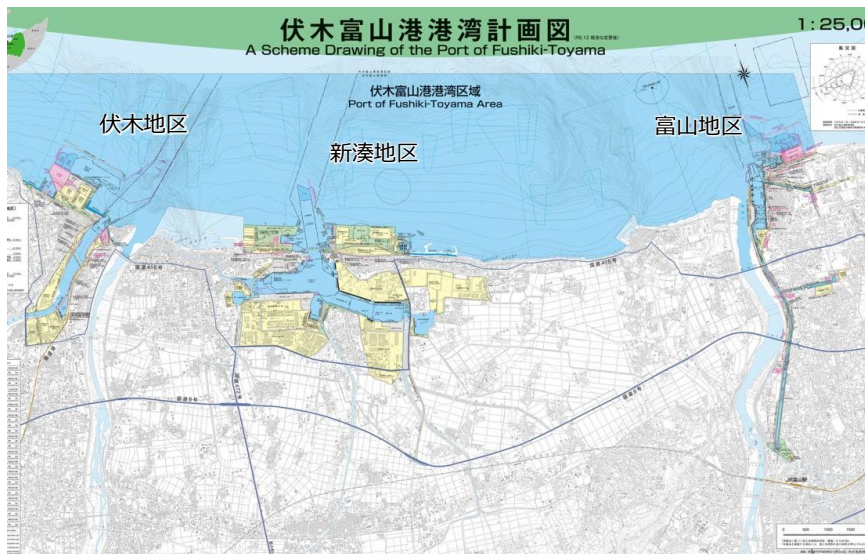
国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 循環資源である金属くずや再利用資材などの取扱いはあり、令和6年の金属くずの取扱貨物量は約18万トンです。また、コンテナ貨物による小口輸送ニーズに対応するとともに、コンテナ貨物及びバルク貨物の双方に対応した港湾機能を活かし、多種多様な循環資源の円滑な受け入れにも対応しています。
- 金属くず等から油を含む汚水が発生する可能性があることから、油水分離槽を設置しています。
- 「災害廃棄物中部ブロック広域連携計画」等により、災害廃棄物の広域処理体制が整備されています。
- ☆ 富山地区には、金属類やプラスチック類などを回収する自動車リサイクル施設などが隣接して立地しており、伏木地区や新湊地区においても、大型車両リサイクル施設やアルミをはじめとした非鉄金属リサイクル施設、太陽光パネルリサイクル施設などのリサイクル関連施設が立地しています。さらに、「富山県企業誘致戦略」において、資源循環産業を含むグリーン分野を重点分野と位置付け、企業誘致を強化しているほか、「富山県サーキュラーエコノミー推進ロードマップ」を策定しており、県を挙げてサーキュラーエコノミーへの移行に積極的に取り組んでいます。また、港湾においては、循環資源の船舶での受入れ、搬出の拡大を目指しています。

■ 位置図（港湾計画図）



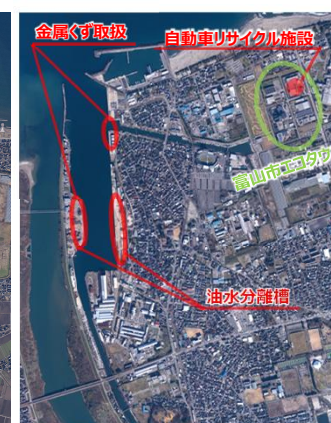
3. その他



伏木地区



新湊地区



富山地区

1. 申請港概要

- 港湾管理者 愛知県
- 担当部署 愛知県 都市・交通局
港湾課 計画グループ
- 地元自治体 豊橋市、豊川市
蒲郡市、田原市
- 三河港は、日本のほぼ中央に位置し、首都圏や近畿圏もカバーする重要港湾である。
臨海部には多くの自動車関連企業が立地し、生産・輸出・輸入の拠点が集積する「自動車流通港湾」として機能している。
自動車を中心とした静脈物流の拠点化を目指し、平成15年にリサイクルポートに指定されている。



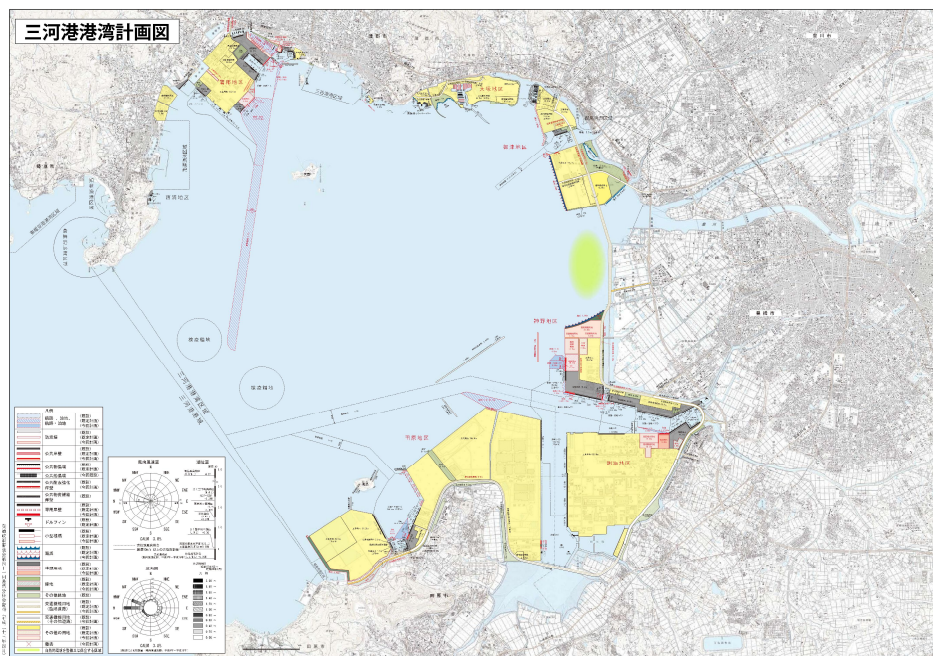
国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- ☆ 三河港では、循環資源貨物として令和6年度では約90万トン、令和7年度では約80万トンを取り扱っております。
今後は、自動車産業における更なるリサイクル率向上の要請に加え、製鉄業における電炉導入拡大による金属スクラップの需要拡大や、使用済み太陽光パネルの大量廃棄に伴う処理需要に応えるべく、循環資源拠点港湾として、港湾施設の更なる機能強化に取り組んで参ります。
- 金属くず、再利用資材、廃棄物、廃土砂の循環資源貨物を取り扱っております。
- ☆ 愛知県では、「あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」を策定しており、プラスチックや太陽光パネルなどを循環利用するモデル事業の展開や循環ビジネスの振興などを通じて、サーキュラーエコノミーへの転換を進めております。
それらのプロジェクトチームには、三河港背後地に立地する企業も参加しており、この取り組みを通して、三河港長期構想に掲げるサーキュラーエコノミーへの移行を推進して参ります。

■ 位置図（港湾計画図）



3. その他



三河港臨海部に立地するリサイクル関連企業

1. 申請港概要

- 港湾管理者 京都府
- 担当部署 京都府港湾局
港湾企画課計画係
- 地元自治体 舞鶴市
- 舞鶴港は日本海側の若狭湾西側に位置し、古くから天然の良港として栄え、戦前は東港地区を中心に軍港として、戦後は京都府北部の産業（紡績業、製材業）の拠点として発展してきた。
舞鶴港は主に外貿貨物を取り扱う西港、内航フェリーと専用バースを有する東港の大きく2つに分類され、平成18年にリサイクルポート指定を受け、循環資源の取扱いリサイクル関連企業の誘致を行っている。



国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

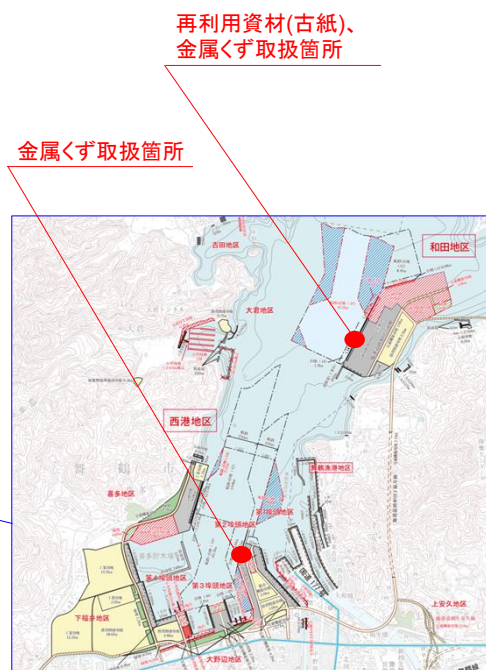
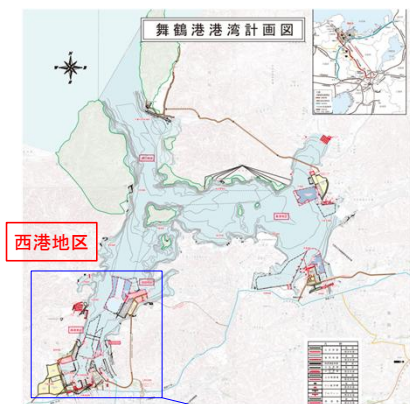
○：実績
☆：計画

- 令和6年の循環資源取扱貨物量（再利用資材（古紙））は約1万トンに達しており、リサイクルポートに指定された平成18年と比較して約5倍に増加するとともに、金属くずの取扱いも行われているなど、同港はリサイクルポートとしての役割を着実に拡大してきました。

☆ 舞鶴港は、これまで対岸貿易における地理的優位性を背景に、既存の国際フィーダー航路及び韓国航路を活用した静脈物流拠点として、また近畿経済圏の門戸港としての役割を担っています。今後は、循環資源の積替え・保管機能の高度化など合理的な荷役作業に備え、地域における循環型社会の形成とサーキュラーエコノミーへの移行に協力を図って参ります。

3. その他

■ 位置図（港湾計画図）



舞鶴港西港地区（第2ふ頭）における金属くず取扱箇所

1. 申請港概要

- 港湾管理者 兵庫県
- 担当部署 兵庫県土木部
港湾課港湾計画班
- 地元自治体 姫路市
- 姫路港は、瀬戸内海の東部、播磨灘のほぼ中央に位置し姫路市、たつの市の地先水面、東西約18kmを港湾区域とする国際拠点港湾です。背後には金属、化学工業の企業が集積しており、播磨工業地帯の中心を支える港として、地域の物流拠点、エネルギー基地として、地域経済社会の発展に貢献している。

平成15年4月にリサイクルポートの指定を受け、神戸港と姫路港で「リサイクルポート連絡調整会議」を発足させ海上輸送の静脈物流ネットワーク形成に向けた情報交換と連携を強化してきた。

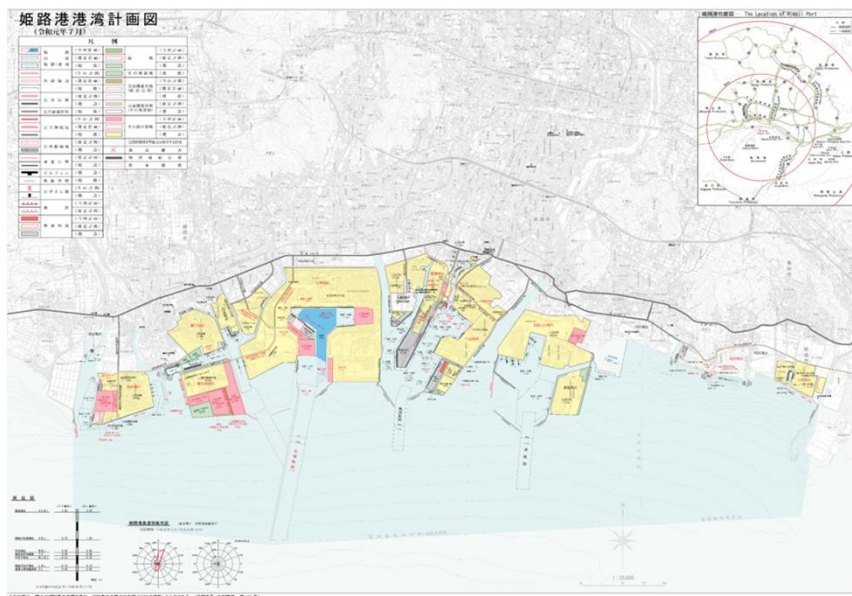


2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- ☆ 姫路港広畑地区の循環資源取扱貨物量（金属くず）は、近年25万トンを超える取扱量の水準を維持し、令和7年の取扱量は令和元年の取扱量と比較して約4.0倍に増加しています。今後、近隣の製鉄所では電炉1基の増設も公表されており、循環資源取扱貨物量（金属くず）の更なる増加が見込まれています。また製鉄プロセスにおいて発生する副産物（鉄鋼スラグ）についても再資源化が進められており、当該港は静脈物流ネットワークの拠点として役割を果たしています。
- ☆ 姫路港広畑地区は、-14m岸壁1バース、-7.5m岸壁1バース、ガントリークレーンを供用しています。更に-14m岸壁1バース、広畑地区と網干沖地区を繋ぐ臨港道路の整備に着手しています。これら港湾施設は、播磨臨海地域を東西に繋ぐ国道250号からのアクセスに優れており、姫路港は物流拠点として高い利便性を有しています。こうした立地や港湾施設を活かすことで、港湾を中心とした静脈物流ネットワークの構築が可能となり、再利用・再資源化等の促進が期待されます。その結果、地域における循環型社会の形成に寄与するとともに、サーキュラーエコノミーの推進を図って参ります。

3. その他



境港後背地に立地するリサイクル関連企業

国際拠点港湾 徳山下松港

山口県

1. 申請港概要

- 港湾管理者 山口県
- 担当部署 山口県土木建築部港湾課
- 地元自治体 周南市、下松市、光市
- 徳山下松港は、山口県の瀬戸内海沿岸のほぼ中央に位置する国際拠点港湾で、石油・化学等の基礎素材型産業を中心とした周南コンビナートを背後に抱える工業港である。平成15年にリサイクルポート指定を受け、西日本の静脈物流拠点として、港湾背後に集積する石油・化学等の企業群が有する技術・設備を活かし、セメント原燃料化などのリサイクル事業を推進中である。



国土地理院地図より

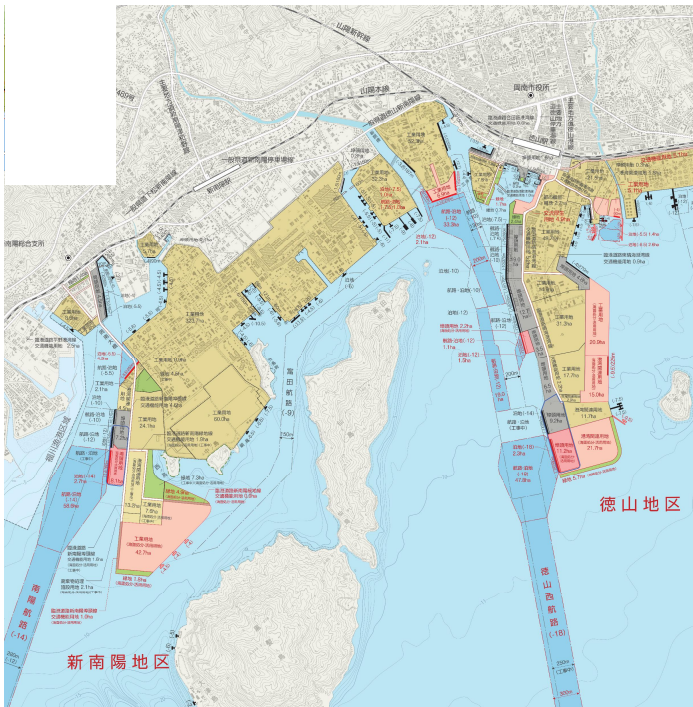
2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

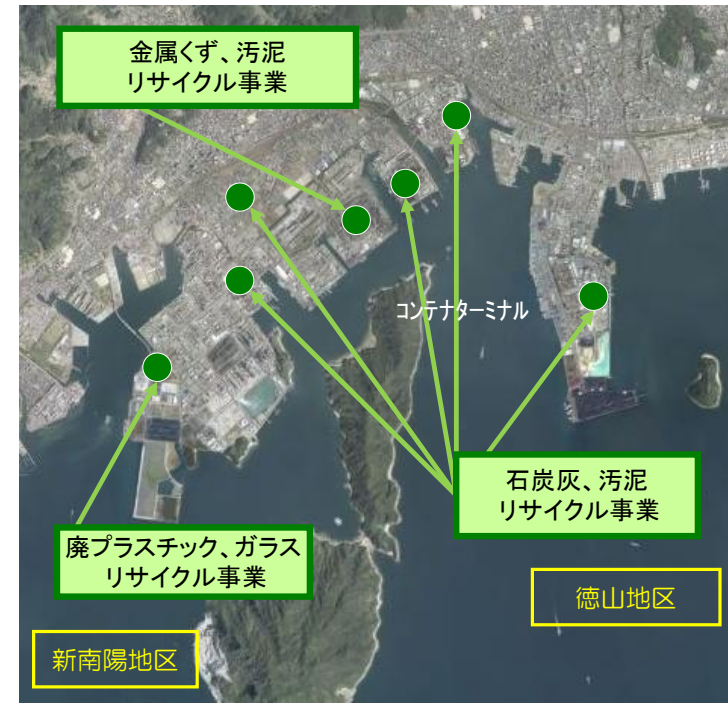
- 徳山下松港においては、石炭灰、金属くず、汚泥、廃プラスチック等を取り扱うリサイクル関連企業が集積しており、令和7年度のこれらの取扱合計量は年間200万トンを超えています。また、主要品目の一つである石炭灰の取扱量はほぼ横ばいで推移しており、リサイクルポートとしての機能を維持しています。

- ☆ 徳山下松港の背後には、石油・化学等の企業群がコンビナートを形成しており、活発な港湾活動を支えています。これら基礎素材型の企業では、保有する設備や技術を活用し、技術開発も含めたリサイクルの取組が積極的に行われています。今後は、これらの事業展開や循環型社会への移行に伴い、海上輸送を活用した多様な循環資源の受入を通じて、広域的な資源循環ネットワークの拠点形成が見込まれています。

■ 位置図（港湾計画図）



3. その他



徳山下松港背後地に立地するリサイクル関連企業

1. 申請港概要

- 港湾管理者 山口県
- 担当部署 山口県土木建築部港湾課
- 地元自治体 宇部市
- 宇部港は、山口県の西部に位置する重要港湾で、石油・化学等の基礎素材型産業を中心とした宇部・山陽小野田コンビナートを背後に抱える工業港である。
平成15年にリサイクルポート指定を受け、西日本の静脈物流拠点として、港湾背後に集積する石油・化学等の企業群が有する技術・設備を活かし、セメント原燃料化などのリサイクル事業を推進中である。



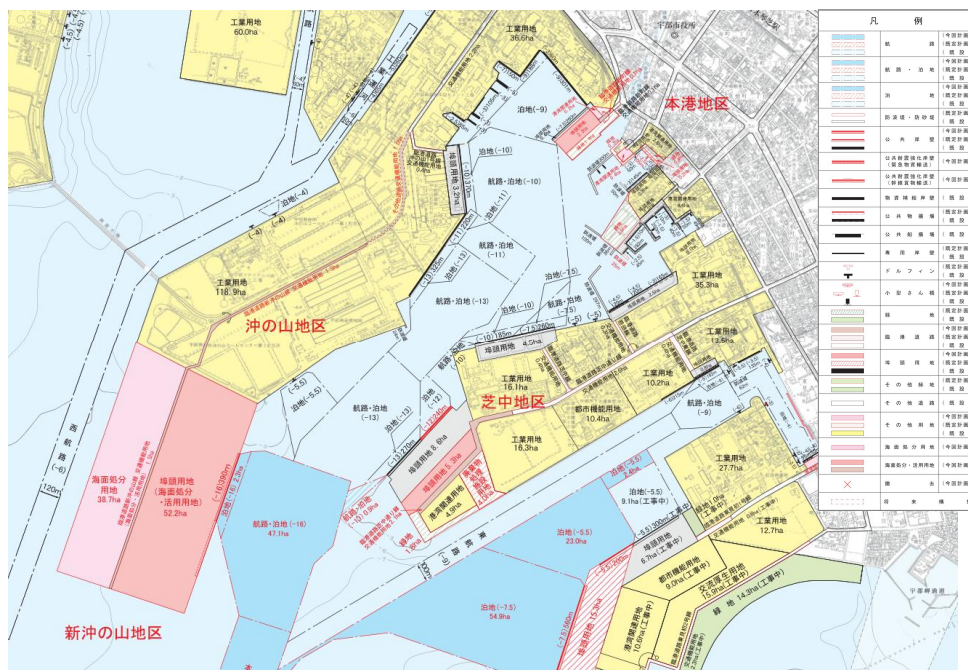
国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 宇部港においては、石炭灰、金属くず、汚泥、廃プラスチック等を取り扱うリサイクル関連企業が集積しており、令和7年度のこれらの取扱合計量は年間140万トンを超えています。また、主要品目の一つである石炭灰の取扱量はほぼ横ばいで推移しており、リサイクルポートとしての機能を維持しています。
- ☆ 宇部港の背後には、石油・化学等の企業群がコンビナートを形成しており、活発な港湾活動を支えています。これら基礎素材型の企業では、保有する設備や技術を活用し、技術開発も含めたリサイクルの取組が積極的に行われています。
今後は、これらの事業展開や循環型社会への移行に伴い、海上輸送を活用した多様な循環資源の受入を通じて、広域的な資源循環ネットワークの拠点形成が見込まれています。

■ 位置図（港湾計画図）



3. その他



宇部港後背地に立地するリサイクル関連企業

1. 申請港概要

- 港湾管理者 愛媛県
- 担当部署 愛媛県土木部河川港湾局
港湾海岸課計画係
- 地元自治体 四国中央市
- 三島川之江港は愛媛県の東端、香川県との県境に位置する重要港湾であり、地場産業である製紙・紙加工業を中心に発展。国内航路として関東方面のRORO船や神戸港への国際フィーダー航路が就航するなど製造業や物流の拠点として重要な役割を担っている。
平成18年にリサイクルポート指定を受け、静脈物流拠点として、製紙産業を中心に循環資源やリサイクル製品の物流効率化を図ることにより、港湾の立場から循環型社会の形成に貢献している。



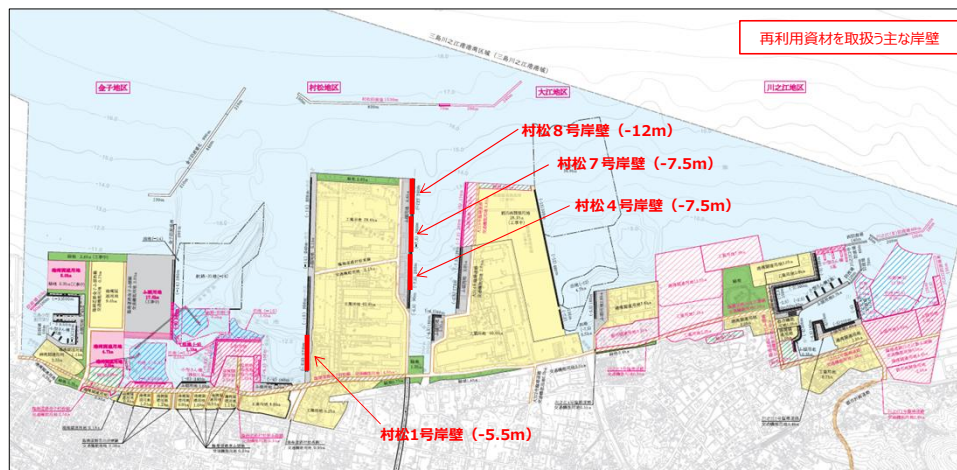
国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 循環資源取扱貨物量は、古紙リサイクルを中心にリサイクルポートとして指定された平成18年以降、近年に渡るまで200万トンを超える取扱量の水準を維持するなど、リサイクルポートとしての役割を果たしている。
- ☆ 臨海部には、製紙関連企業が立地し、サステナブルな社会の実現に向けたバイオリファイナリー事業を推進しており、古紙の高度利用技術を活かし、当該事業に古紙パルプを活用することで、さらなる環境負荷低減を目指すとともに、地域における循環型社会の形成を図っている。
また、地元自治体である四国中央市には産・官・学・金が参画する「四国中央市カーボンニュートラル協議会」が設置されており、当協議会の取り組みの中にはカーボンニュートラルを進めていく一環として、バイオマス等を利活用する循環型社会の形成（資源循環）の要素も含まれているため、当協議会との連携を図っていくことで、体制の構築・強化を図って参ります。

■位置図（港湾計画図）



3. その他



三島川之江港後背地に立地する主な製紙関連企業や取組状況

1. 申請港概要

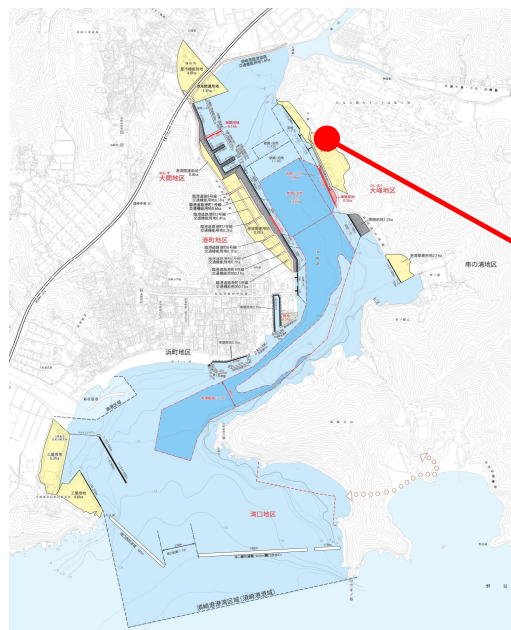
- 港湾管理者 高知県
- 担当部署 高知県土木部
港湾・海岸課
- 地元自治体 須崎市
- 須崎港は、土佐湾のほぼ中央に位置し、リアス式海岸の地形を生かした天然の良港として、また、セメント、石灰石の積出港として発展してきました。

背後には日本有数の石灰石の産出地である鳥形山鉱山を有しており、産出した石灰石は湾口部の栈橋から国内外に搬出するなど、地場産業を支える重要な役割を果たしています。

令和7年9月に作成された須崎港港湾脱炭素化推進計画に基づき、リサイクル燃料(バイオマス・廃棄物等)への代替の取組が進められています。



■ 位置図 (港湾計画図)



2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○: 実績
☆: 計画

- セメント企業、廃液のリサイクル企業が立地しており、セメント代替原料及び代替熱エネルギーとして、間伐材や廃棄物の受け入れを行って参りました。近年では、約10.1万トン/年が移入されており、脱炭素化に向けて、石炭代替となるバイオマス・廃棄物エネルギーの利用を進めています。近年の取組として、令和6年から関東の再生資源燃料を高知新港経由のコンテナ海上輸送を不定期便として開始し、令和8年には高知新港初の国内定期航路の就航に繋がっています。

- セメント企業は、災害廃棄物の処理の協力に関し、高知県及び須崎市を含む13の地方自治体と各種協定を締結し、災害時における早期の復旧・復興のための体制を整えています。また、災害時に発生する災害廃棄物の受入れも積極的に行っており、平成30年西日本豪雨などの災害廃棄物を受け入れています。

☆ 港湾計画に基づく、船舶大型化に対応した岸壁(水深13m)を整備することで、セメント輸送及び循環資源等の受入れ拡大を図り、物流の効率化と広域的な資源循環を促進し、日本全体の循環経済(サーキュラーエコノミー)の形成・推進に貢献して参ります。

3. その他



セメント企業
リサイクル企業

岸壁名	岸壁(-9m)
取扱貨物	セメント(輸出・移入) 廃棄物(移入)

岸壁名	岸壁(-7.5m)ドルフィン×2
取扱貨物	石灰石(移入)、石炭(輸入) セメント(移出)、廃棄物(移入)

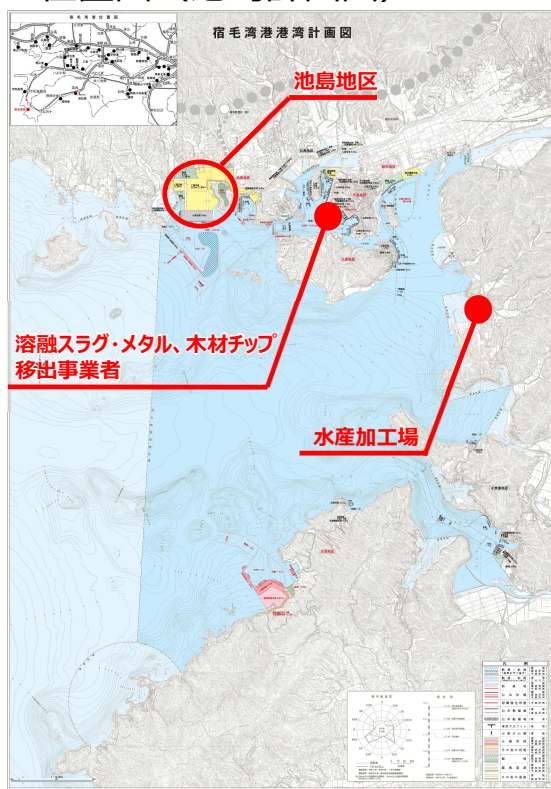
岸壁名	岸壁(-7.5m)
取扱貨物	石灰石(移入) 廃棄物(移入) 非金属鉱物(移入)

須崎港後背地に立地するセメント企業、リサイクル関連企業

1. 申請港概要

- 港湾管理者 高知県
- 担当部署 高知県土木部
港湾・海岸課
- 地元自治体 宿毛市、大月町
- 宿毛湾港は高知県西部に位置し、風や波浪の影響を受けにくく、湾内の水深が深いという優れた自然条件に恵まれた良港です。
近年では木材の取扱が増加し、クルーズ船の入港が増えたことで、地域に大きな経済効果をもたらしています。
災害時には防災拠点港として幡多圏域に向けた緊急物資の受け入れ及び輸送拠点として機能し、地域住民の安全確保や迅速な復旧活動に欠かすことのできない非常に重要な港湾となっています。

■ 位置図（港湾計画図）



2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 適切なりサイクルや再資源化の推進を目的として、一般廃棄物処理施設である幡多グリーンセンターから、近年では溶融スラグ・メタル約0.1万トン/年およびバイオマス発電用木材チップ約0.7万トン/年が排出されており、池島地区へ集積し、関西・九州地方へ効率的に移出して参りました。これにより、限りある資源の有効活用を図るとともに、廃棄物の適正処理や削減にも寄与しており、将来的にはさらなる取扱量の拡大が見込まれます。
- ☆ 池島地区は大型船が接岸可能な岸壁(計画水深－13.0m)を有しており、その背後に位置する荷さばき地の整備を進める計画をしています。現在、荷さばき地では木材を集積していますが、整備を進めることで、世界的な砂不足を背景に需要が増加しているスラグ類、また、近年、需要が増加している鉄スクラップについての集積が可能となり、他港からの内航船輸送、積み替えのハブ港としての港湾利用が見込まれます。
- ☆ 本港に隣接する漁港に位置する水産加工場等から排出される加工残渣などを回収し、飼料や肥料として再利用するシステムの整備を計画しております。この取り組みと連携を図り、港湾を核とした地域における資源循環を一層促進するとともに、地元産業の持続可能性向上にも寄与することが期待されます。

3. その他



溶融スラグ・メタルの集積状況



木材チップの集積状況



水産加工場の作業状況

北九州港の風力発電
発電能力 243.3MW
220MW(25基)/6.6MW(2基) 他

北九州港の太陽光発電
発電能力 122.8MW
42.9MW/13MW 他

風力発電事業

超硬合金リサイクル事業

バイオマス発電事業

パテンコ合金リサイクル事業

ガラスリサイクル事業

バイオマス発電事業

響灘環境コンビナート

響リサイクル団地

響灘RP岸壁

汚泥・金属等リサイクル事業

廃木材・廃プラスチックリサイクル事業

北九州市エコタウンセンター

古着リサイクル事業

食品廃棄物リサイクル事業

都市鉱山リサイクル事業

太陽光パネルリサイクル事業

基地港湾

ひびきコンテナターミナル

R-1号倉庫

日本製鉄

凡例
太陽光発電
風力発電

北九州港後背地に立地するリサイクル関連企業

1. 三池港概要

- 港湾管理者 福岡県
- 担当部署 福岡県県土整備部
港湾課
- 地元自治体 大牟田市
- 三池港は福岡県の南端「大牟田市」に位置し、有明海に面する重要港湾で、県南地域の物流拠点として発展。
内港北地区の公共埠頭には2つの岸壁を整備し、神戸港との国際フィーダー定期航路を備え、諸外国との交流を推進。平成15年にリサイクルポート指定を受け、多様なリサイクル関連企業が集積しており、保有技術、設備を活かした事業の推進が図られている。



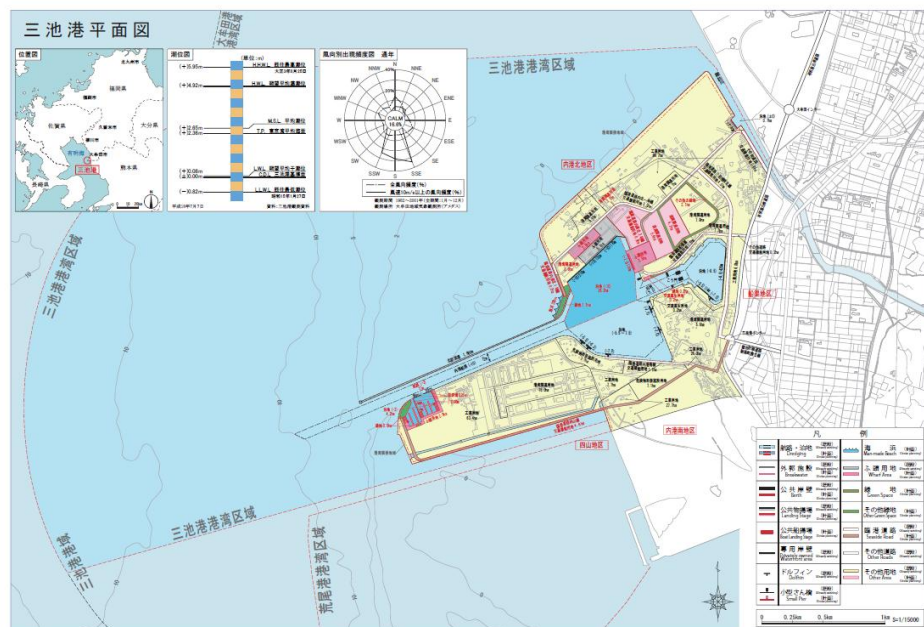
地理院タイル（地理院地図Vector（試験公開）（ベクトルタイル））を加工して作成

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

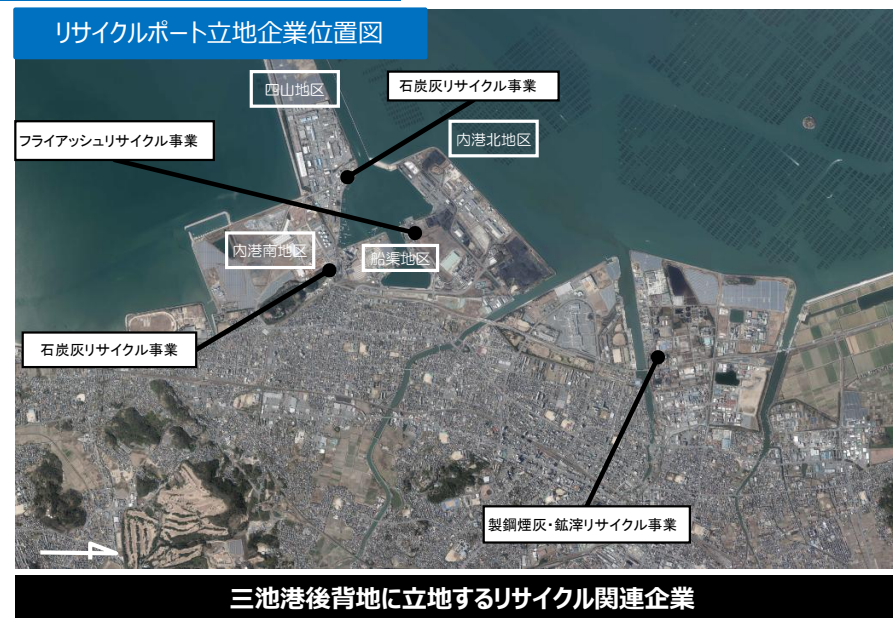
○：実績
☆：計画

- 近年における循環資源取扱貨物量は30万トンを超え、近年増加傾向にあることから、リサイクルポートとしての役割を拡大しています。
- 大牟田エコタウンを中心に資源リサイクル産業、また、公害を克服してきた技術やノウハウに基づく省エネ・省資源をはじめとする環境関連産業が集積しており、「有明海側拠点港(リサイクル貨物)」として、広域的な資源循環ネットワークの形成に寄与して参りました。
- ☆ 隣接する臨海工業団地には、リサイクル関連企業が進出しており、循環資源貨物の集積が進み、太陽光・バイオマス等の再生可能エネルギー発電施設の立地が進んでおり、これらの資源の有効活用や再生可能エネルギーの導入を通じて、地域における循環型社会の形成とサーキュラーエコノミーの協力を図って参ります。

■ 位置図（港湾計画図）



3. その他



三池港後背地に立地するリサイクル関連企業

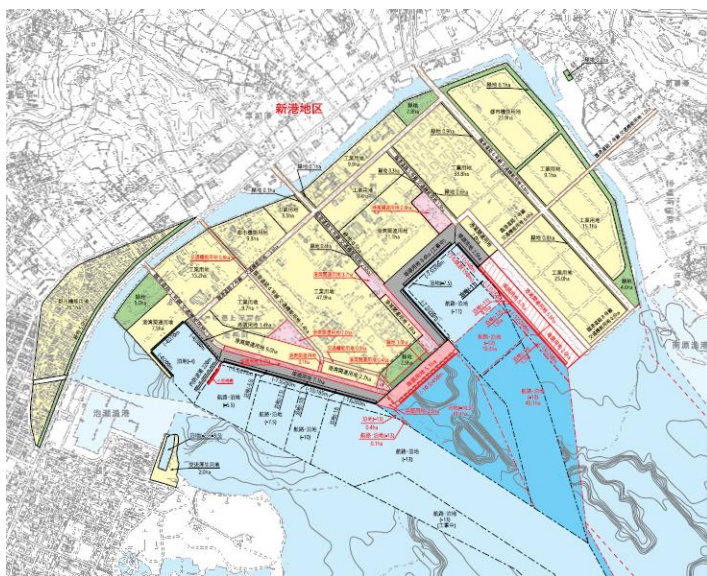
1. 申請港概要

- 港湾管理者 沖縄県
- 担当部署 沖縄県土木建築部
港湾課
- 地元自治体 沖縄市、うるま市 ※新港地区
- 中城湾港は、沖縄本島中南部の東海岸に位置する重要港湾です。

中城湾港新港地区は、沖縄経済の自立的発展を図るための拠点として流通加工港湾の整備が位置付けられ、土地造成（工業用地）や港湾施設の整備を推進してきました。

その結果、平成15年4月にリサイクルポートに指定され、県内のリサイクル拠点及び循環資源輸送の中継拠点の役割を担うほか、平成26年6月に国際物流拠点産業集積地域（うるま・沖縄地区）に指定され、高付加価値のものづくり産業等の企業立地が進展し、新たな産業と雇用の場の創出が図られております。

■ 位置図（港湾計画図） ※新港地区



国土地理院地図より

2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 中城湾港新港地区の循環資源取扱貨物量は、平成21年から令和7年の17年間で2倍以上に増加しており、令和7年は約47万トンの取扱となっております（海上輸送・陸上輸送）。

☆ 中城湾港長期構想において、新港地区は循環型社会の構築を支援する拠点として位置付けられており、リサイクル関連企業が集積する本地区の特性を活かし、多様な循環資源の集積・再資源化を促進する等、サーキュラーエコノミーの推進に貢献して参ります。

3. その他



中城湾港新港地区背後地に立地するリサイクル関連企業